新RECOVER実習 インストラクターセミナー Q&A

2026年10月28日（水）オンライン開催 ／ 説明：上田先生 ／ 主催：JaVECCS事務局

決定事項（まとめ）

- 新しい実習の**本格導入は2027年3月（東京）**から。12月（大宮）は人数が少なく、機材（コントローラー）の課題もあるため見送り。
- **11月中旬の高松**で、BLS・心電図判読・除細動の流れを部分的に試行（ALSシナリオは現行のものを使用）。結果は時間配分・課題とあわせてインストラクター間で共有。
- 予備のコントローラー等の機材購入を、JaVECCS内で検討。
- マニュアル・スライドの日本語版は、フレッチャー先生に確認のうえ共有予定。

1. 実習の構成・時間

Q 新しい実習で、全体の所要時間は短くなりますか？

A 短くはなりません。新しいマニュアルどおりに行うと**最低5時間**かかり、16〜20人規模ならそれ以上かかることもあるので、**5〜6時間**は確保してください（現行の実習も合計約6時間）。救急に慣れた参加者が多い場合は、最初のBLSを短縮してシナリオに時間を回すなど、会場や参加者に応じて配分を調整できます。

Q 旧オンラインコースの受講者と、新オンラインコースの受講者が混在しても問題ありませんか？

A 米国でも同じ状況がありましたが、大きな問題は起きていません。ただし旧コースの受講者は新しい情報を持っていない可能性があるため、移行期間（1〜2年）は**実習の最初に新旧の受講者の割合を確認**し、必要に応じて「新ガイドラインではこうなっています」と補足説明をしてください。

Q BLS初期評価で使うビデオに字幕はありますか？

A 現行のビデオは英語のみで字幕はありませんでしたが、今回は**キャプション（字幕）付きのもの**を使うのがよいです。ビデオを作り直す必要はありません。

2. BLS（胸骨圧迫・換気）

Q ブルドッグなど胸郭の幅が広い犬の圧迫練習には、どの機材を使えばよいですか？

A 日本には現在、対応するマネキンがありません。米国では**3Dプリンターで作ったモデル**（胸が深い型・丸い型・幅広型）で練習しています。作り方は米国のインストラクターポータルで公開されているので、関心のある先生には共有します。RECOVERから購入することもでき、時間はかかりますが、3月の大会時に米国から持参することも可能です。

Q 新しく加わったバッグマスク換気の練習には、何を用意すればよいですか？

A 理想は、病院で使う**酸素マスクと固定用のゴムバンド**のセットです。Amazonなどで安く購入でき、20人規模なら**10個程度**が目安です（カップとゴム手袋で代用する方法もあります）。大切なのは、隙間ができないようにしっかり密着させるやり方を実際に見せることです。

Q 小型犬用・猫用マネキンの数が足りず、全員が一斉に練習できません。どうすればよいですか？

A **3人1組で順番に**行ってください。練習は1回1分間なので、繰り返しによる時間のロスはそれほど大きくありません。ディスカッションは3回に分けて短く行うか、よくできているグループなら1回目でしっかり話し合って残りは練習だけにする、といった調整もできます。理想的には、猫用マネキンを増やすのが望ましいです。

Q 気管挿管下の換気練習では、役割交代はどのように行いますか？

A 新しい実習では、従来の「圧迫と換気の交代」そのものの練習は省かれました。救助者2が挿管下でバッグ換気を行い、2分間で一度止めて役割を交代し、再開する形です。

※マニュアルの記載では、交代後に「救助者1がバッグ換気、救助者2が圧迫を1分間」とも読めるため、上田先生が確認中です。それまでは従来どおり行い、可能であれば役割を交代してもう1回繰り返してください。

Q BLSの試験はありますか？

A **BLSとALSを同時に実施する場合、BLSの試験はありません。**BLSのみを受講する場合はBLSの評価を行い、その方法は現行（これまで）のやり方で行ってください。

3. ALSシナリオの評価・合否

Q 最後の評価では、全チームが同じシナリオを行うのですか？

A いいえ、**チームごとにシナリオが異なります**。評価する内容自体は大きく変わりませんが、項目の順番などがシナリオに合わせて変わります。各シナリオの目標と準備物はマニュアルに記載されているので、それに沿って準備してください。

Q シナリオによって難易度が違うと、評価の順番で有利・不利が出ませんか？

A シナリオの長さや難易度は実際にかなり違います。ただ、新しい実習の評価は、厳しく採点して合否を決めるというより、**ディスカッションの延長として全員で最終確認をする**意味合いが強いものです。シナリオは難しくするためではなく、重要なポイントを体で覚えて帰ってもらうために作られています。もちろん、重要な点が理解できていなければ合格にはできません。

Q 他チームに書いてもらう評価シートは、回収して点数を確認しますか？

A **回収・採点はしません。**評価シートは、参加者が「このチームのCPRはどうだったか」を評価し、その理由を挙げながら全員でディスカッションするための参考ツールです。採点や合否判定のためには使いません。

Q もう1回やってもらうチームを決めるのは、参加者ですか？

A ディスカッションを踏まえて、**最終的に決めるのはインストラクター**です。評価表に沿って「できたか・できなかったか」を見るので、インストラクターと参加者の評価が大きく食い違うことはまずありません。話し合いですり合わせたうえで、インストラクターが合否を出してください。

Q 合否はどのタイミングで出せばよいですか？

A 決まりはありません。**チームごとにその場で合否を出す方法**と、**全チーム終了後にまとめて出し、必要なチームにもう1回やってもらう方法**があります。日本の文化や状況に合う方法で運用してください。評価表には1回目・2回目の記入欄があり、2回目は別のシナリオで行うのがよいと考えられます。

Q 従来の「2回ダメなら不合格」や、インストラクター間で共有していた「これをやったら即アウト」の基準は引き続き使いますか？

A
- 絶対に外せないポイントは**評価表に含まれています**（例：心電図の装着、ETCO2モニターの装着、ETCO2の低値を声に出してチームに伝え改善する、など）。
- 2回行っても重要な点ができていなければ、**不合格と判断して構いません**。時間があれば3回目を行ってもよいです。
- 不合格を皆の前で伝えるのは避け、該当チームだけ残ってもらい、他のチームは合格として解散したうえで、3回目のチャンスを与えるか、別の機会の再受講を案内するかを判断してください。
- 米国では不合格はほとんど出ていません。日本で不合格が出る理由と防ぎ方、不合格時の伝え方・対応は、**インストラクターチームで事前に詰めておく**ことになりました。

4. 導入時期・機材・資料

Q 新しい実習はいつから導入しますか？

A 早いほうが望ましいものの、現行の実習でも新ガイドラインと同じ内容を教えることは可能なため（現在も合間に盛り込んで解説しています）、急いで全面移行する必要はありません。協議の結果、**本格導入は2027年3月（東京）**とし、**11月中旬の高松でBLS・心電図判読・除細動の流れを部分的に試行**することになりました。12月（大宮）は人数が少ないため、一気に導入すると混乱が予想されるとして見送ります。

Q シミュレーターのアップデートは必要ですか？ シナリオの追加はできますか？

A アップデートはダウンロードしてインストールするだけで、作業自体に時間はかかりません。シナリオの追加も簡単です。ただし、PCの置き場所まで行って設定する手間があるため、対応できる先生と時期を決めておく必要があります。高松での試行では、**除細動練習用のシナリオだけを現行PCに追加**し（ファイルを松方先生に送付）、ALSシナリオは現行のものを使います。

Q 日本の古い機材でアップデートすると、クラッシュする恐れはありませんか？

A マネキン本体は問題ありませんが、**古いコントローラーが課題**です。新しく購入したコントローラー（現在1台のみ）は問題なく動作しています。詳細はヤギ氏に確認します。コントローラーはいずれ交換が必要になるため、この機会に新しいものへ替えることも選択肢です。

Q コントローラーは注文してすぐに届きますか？

A 前回は**コントローラー単体ならすぐに送ってもらえました**。一方、マネキン本体の製作は3〜6か月待ちと案内されています。

Q 予備の機材は購入しておくべきですか？

A 10年近く使っている機材を維持していただいていますが、壊れてから注文したのでは間に合わないので、**バックアップとして今のうちに1台でも注文しておく**のがよいと考えます。購入はJaVECCS内で検討します。

Q ポスターやパネルも作り直しが必要ですか？

A ポスターは新しいものに替えたほうがよく、**新しい実習の導入を待たずに先行して更新**してよいと考えます。国内の業者に依頼して作成する方向です。

Q 最後の評価まで全員参加が必要ですか？ 早く帰りたい人はどうしますか？

A 評価は試験というより、フィードバックや復習の練習の場なので、**原則は全員参加**が望ましいです。どうしても早く帰る必要がある人は、最初のチームで実施してから評価の部分を抜ける形も不可能ではありません（ただし得られるものは少なくなります）。

Q スライドやマニュアルの日本語版はもらえますか？

A インストラクター向けスライドの日本語化について**フレッチャー先生に確認したうえで共有**します（まずはBLS・心電図・除細動の部分）。マニュアルとパワーポイントも同様に確認し、日本語版をお送りします。ビデオのキャプションに問題があれば改良していくので、お気づきの点はお知らせください。

本資料は会議の文字起こし・AIメモをもとにJaVECCS事務局が整理したものです。セミナーの録画の共有方法は、別途ご案内します。